

校長室から平成31年2月26日

人生は100回走じゃない

2月24日(日)の夕方、何気なくテレビを観ていたら、高校生の男女数名が九州の島から、東京に就職して、苦悩しながら自立しようとする内容のドキュメンタリー番組が放送されていました。思わず、引き込まれ、2時間、ずっと観ていました。

1人の高校卒の女性は、島にいるとき「東京に行って、自分の夢を実現したい。」と決意し、親の反対を押し切って、お寿司屋さんで板前の修業をしようとします。親御さんは、「板前なんて、厳しい修行に耐えられるはずがない。しかも、東京で・・・。」と言って反対します。しかし、もう1人の高校卒の男性と一緒に、同じお店に就職し、頑張ろうと決意します。互いに励まし合いながら頑張っていました。それぞれの仕事が大変で、やがて会話も少なくなってしまう。お店の親方は、一緒に働きはじめた2人を観察しながら、「男の子は、腕もよく、続くかもしれないけど、女の子は生真面目すぎて、ちょっと難しいかも・・・。」と予想します。その予想は的中し、女性はある日突然、親方に「すみません。やっていけないと思います。」と打ち明け、お店を辞めてしまいます。職場に男性しかなくて、なかなか関わり合いが上手くいかず、苦労したようです。しばらくして、親方に認められていた男性も、同じお店で働いていたもう1人の先輩が他のお店に引き抜かれると、その先輩を慕って、お店を辞めてしまいます。

新しいお店に引き抜かれた2人は、最初はお店が繁盛し、すべてが順調でしたが、やがて客足は途絶え、お店が閉店に追い込まれてしまいます。その時、その若者はインタビューで「最初の店を辞めなければ、こんな事にはならなかった。自分は甘かった。」と後悔します。

一緒に島を出たものの、2人の男女は、途中で職場を離れてしまいました。親方もインタビューで「なかなか難しいね。でも、次の職場に行っても、そんなに甘くはないよ。」とため息をつきますが、2人の将来を心配して、ずっと見守っていたのでした。

やがて、女性が数年の月日を経て、親方のところに戻ってきます。そして、さらに、新しいお店に引き抜かれた男性も親方が自ら声を掛け、自分のお店に戻します。その時に親方が、「人生は100回走じゃないからね・・・。」と、インタビューに答えていました。自分の夢を叶えようとして、九州の島から出てきた若者たちは、都会の厳しさを経験したり、人の思いやりに触れたりしながら、再起を果たそうとします。

その他にも、島から出ていった若者が数名取り上げられていましたが、やはり、職場から離れてしまったり、自分の目的を見失ったりして、苦労している姿が映し出されていました。その若者たちも同じような事を言っていました。「自分が甘かった。もう少し、我慢するべきだった。もう少し、ちゃんと考えるべきだった。」

でも、よく考えてみると、人間が成長したり、成熟したりするには、それなりの経験や時間が必要なのだと思います。誰もが失敗しないように生きて、順風満帆な人生を歩むことができれば、それはそれで幸せなのでしょうが、やはり、人生には様々な事が起きますし、思ってもいない事が起きます。いや、実は思ってもいない事の連続なのかもしれません。思ってもいない事には、もちろん楽しい事やうれしい事も含まれます。それを自分の力にしたり、克服したりしながら、豊かな心が育ち、人格が形成されていくのかなとも思います。

テレビに映し出される若者、心配し続ける親御さん、お店の親方を観ながら、「人生は100回走じゃないから。」という言葉が心に響きました。とても深くて思いやりのある言葉だと感じました。